

【風間浦村】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	72	69	63	57	51
② 予備機を含む 整備上限台数	0	0	72	—	—
③ 整備台数 (予備機除く)	0	0	63	—	—
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	0	63	—	—
⑤ 累積更新率	0	0	100%	—	—
⑥ 予備機整備台数	0	0	9	—	—
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	0	9	—	—
⑧ 予備機整備率	0	0	14.3%	—	—

(端末の整備・更新計画の考え方)

- ・ 前回の整備から5年を超えた端末を更新する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：93台

○処分方法：指導用端末等として活用

○端末データの消去方法：自治体の職員が行う

○スケジュール(予定)

令和8年8月 新規整備端末の使用開始(令和8年度整備分)

【風間浦村】

ネットワーク整備計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
十分なネットワーク速度が確保できている学校数と総学校数に占める割合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
アセスメントの実施有無	無	有(予定)	無	無	無
<p>現在、各学校はTC(有線LAN)とST(無線LAN)の2系統が整備されており、1人1台端末は学習系として整備したST接続のもと活用されている。</p> <p>STは基本的に、各学校から1Gbpsのベストエフォート回線を経由するが、学校を束ねて1Gbps帯域補償型の回線に集約されインターネットに接続されている。頻繁に遅延が発生するわけではないが、時折遅延や不安定な接続となっている状況にある。</p> <p>(課題解決の方法・予定)</p> <p>令和7年度にネットワークアセスメントを実施し、ネットワーク基盤の見直しにより、根本的な課題の解決を図っていく。</p>					

【風間浦村】

校務DX計画

風間浦村は校務支援システムを令和2年より導入するとともに、教員の働き方改革を推進してきました。

今年度は更新の時期でもあり、既存のシステムを利用することになっているが、次期システムにおいては県の共同調達によるシステムや近隣地区の統一システムに向けて計画していく。

今後の校務支援の方向性については、教職員が更に使いやすく、負担の少ない校務DXを推進していくために、導入済みの校務支援システム利用方法の研修と紐付けすることで校務支援システムに情報集約ができ、日々の業務を省略できるような機能の追加や、既に利用している他のシステムで校務支援システムと連携がとれないものがあれば、連携がとれるシステムに変更することも考えられる。

教育委員会と学校との事務に関するDX推進については、中央教育審議会答申にならい学校に裁量を持たせ申請承認手続きから届出手続きへの事務変更を行ったうえで、押印の省略、ペーパーレスによる届出手続きや文書への重複となるような鑑文書の省略等をさらに推進していく。

教育委員会から学校へ依頼する国及び県からの通知や調査については、メールによりペーパーレスで通知の送付や回答の送受信を行っている。

現在のDX化により、ペーパーレス化は5割程度完了しているが、校務支援システムの導入や、回線を意識せず利用できるソフトウェアの導入やGIGAタブレット更新による旧GIGAタブレットの再利用により、現在よりもより使いやすく負担の少ない環境にできるよう検討を続けていく。

【風間浦村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めようとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 児童生徒自身がICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにし、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成する。
- (2) ICTの特性を最大限に活用して、誰1人取り残すことなくきめ細かな支援をし、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会や多様な学びの機会の充実を目指す。
- (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともに、デジタル技術の活用を通して、社会に積極的に関与し、参加する能力の習得を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の下、令和2年度に国庫補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、1人1台端末や教師用端末、大型提示装置等の整備を行い、学校におけるICT環境の充実を図ってきた。

令和3年度から本格運用を開始し、連絡ツールや授業支援ツール、デジタル教材などの各種ソフトウェアの導入を進めている。

ネットワークが不安定になる状況が度々発生し、授業に支障が出るなど影響が出ることがあることから、ネットワークの再整備が急務と考えられる。

GIGA第2期ではネットワークアセスメントを実施し、ネットワーク環境の整備を行いながら更なるネットワークの安定に努める。また、ソフトウェアの導入も選定しながら個別最適な学びの充実に向け取り組む事が重要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末については、公教育の必須ツールとしての役割を踏まえ、計画的な維持・更新に取り組む。さらに、学校の通信環境については、授業等で多くの児童生徒が1人1台端末を一斉接続しても安定的に利用できる通信環境の確保に努め、児童生徒及び教職員の意欲を阻害することなく、新たな学びへの挑戦を支援することとする。

授業支援や学習支援の素材として質の高い多様なデジタル教材やソフトウェア、サービスの活用を推進し、児童生徒が主体的に学習に取り組み、才能を伸ばす個別最適な学びに繋げていく。